

中国貴州省の抹茶輸出拡大戦略

研究員 山本裕二

世界最大の緑茶生産国である中国が抹茶を増産している。貴州省では増産体制を整えるとともに質の向上にも注力する。輸出先も年々広がっており、すでに日本産の需要を代替する動きもみられる。

1 世界最大の生産・輸出国である中国

国際的な茶貿易において中国の存在感は大きい。国際茶業委員会によると、2023年の緑茶生産量は217万トンであり、そのうちの89%を中国が占める。緑茶の世界最大の輸出国でもあり、以前からアフリカ向けに多くの緑茶を輸出していた。

また、中国にとって茶産業は農村の貧困脱却の手段として位置付けられている。主要な茶産地である福建省で勤務していた習近平総書記は、茶産業の経済的な潜在力を評価し、科学的な生産管理やブランド構築を推進してきた。

2 貴州省の抹茶生産拡大計画

世界的な抹茶需要の拡大を受けて、世界最大の緑茶生産国である中国も抹茶の増産にかじを切っている。その中心となるのは貴州省だ。同省は量のみならず品質の向上にも注力する。

増産の指針となるのが同省による「貴州省抹茶産業高品質発展3カ年工作方案」だ。これは26年から28年までの計画であり、同省を高品質な抹茶を作るための原料基地や輸出地域とするために策定された。

当計画によると、まず全体目標として「規模拡大」「品質の向上」「市場の開拓」「ブランドの確立」が挙げられている。

このうち規模拡大については、28年までに

約13,000haの抹茶茶園、8,000トン以上の抹茶生産、そして10億元規模の抹茶関連企業の育成を掲げている(第1表)。

品質向上については、栽培段階で研究機関や大学と連携して抹茶に向けた品種の選抜と育成に取り組む。製品品質の底上げのためには碾茶加工の設備と技術水準の向上を図るとされている。

市場開拓としては、国内市場を深耕するとともに海外展開も重視している。積極的な展示会販売活動への参加やブランド化を通じて世界に貴州産抹茶の販売拠点を5か所設置し、毎年、輸出額を2割以上増やす。

このように貴州省の計画は栽培から加工、販売、輸出までといった川上から川下までを網羅する内容となっている。28年の数値目標がどの程度達成されるかは不明だが、行政としても抹茶生産の経営体に対する融資を強化するなど、産官学連携で強力に抹茶生産を押し進める姿勢がうかがえる。

3 貴茶集団の台頭

貴州省で抹茶生産の核となるのが10年に設立された「貴茶集団」だ。同グループは、施設導入や輸出等で中国政府の支援を受けられる国家重点企業である。日本の大手製茶機械メーカー製の生産ラインを導入した抹茶工場を整備し量産体制を整え、拡大する抹茶の需

第1表 貴州省の計画における数値目標

項目	数値目標
抹茶茶園	20万畝以上(約13,000ha)
抹茶生産量	8,000トン以上
抹茶生産額	80億元以上

資料 貴州省「貴州省抹茶産業高品質発展3カ年工作方案(2026～2028年)」

要に依っている。

また、同社は栽培や加工方法の高度化を経て海外への販売も増やしている。例えば、同社はEUの残留農薬基準に準拠して抹茶を生産している。EU基準は世界的に厳しいためそれに準じて生産・製造しているということは、規制がEUより緩い他の国・地域にも輸出できる可能性が高く、それだけ販路も広がる。実際に一部報道によると「ハーゲンダッツ」や「スターバックス」など国際展開するブランドにも製品を供給している。そのほか、同社ウェブサイトによると、ドイツや米国、シンガポール、フランス、日本などにも輸出している。

4 広がる輸出先

このように貴州省ではすでに抹茶の増産は進んでおりその結果、輸出も拡大しているとみられる。抹茶自体の輸出データは確認できないが、中国税関総署のデータから貴州省の輸出業者を経由した抹茶を含む緑茶の輸出状況をみる。

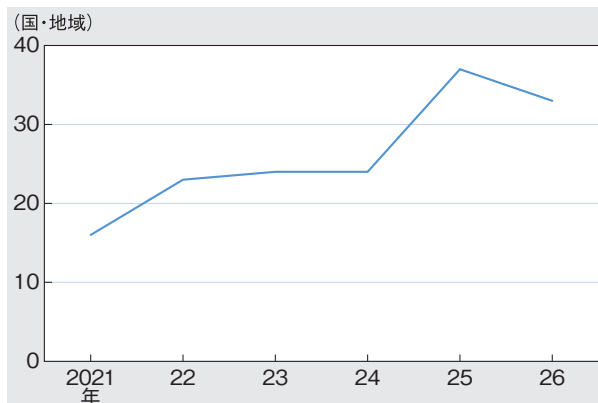
まず、緑茶の輸出数量は21年時点で3,400トンだったのに対し25年は3,800トン超と徐々に増えている。26年は6月までの累計で1,900トン超とこのままのペースでいけば前年と同等もしくはそれ以上の数量となりそうだ。

数量に比べより大きな変化がみられるのは輸出先国・地域数だ。21年は16国・地域で23～24年は24だったのに対し、25年は37、26年（1～6月累計）は33と拡大している（第1図）。

その結果、貴州省の緑茶輸出先の地域に変化がみられる。22年以降はアフリカ向けが大半を占めていたが、少し比率が低下する一方、欧州向けの比率は1割から3割近くまで上昇している。

この輸出先地域の変化は貴州省の高単価な緑茶生産が進んでいることが背景にあるとみられる。輸出単価をみると、アフリカ向けの緑茶は21年から26年を通して1kg当たり3ドル台であるのに対し、欧州向けは21年時点で

第1図 貴州省の緑茶輸出先国・地域数



資料 中国税関総署から作成
(注) 26年は1～6月累計

4ドル台、26年時点では8ドル台まで上昇している。

5 日本産との競合

このように中国・貴州省はすでに輸出を拡大しているとみられ、輸出する茶も高単価となっている。これは日本の抹茶輸出戦略と重なる部分があり、今後はより中国産との競合激化が予想される。

業界関係者からは、すでに抹茶のなかでも食品素材として使用される比較的安いものは中国産に置き換わりつつあるとの声を聞く。そのため日本はより高単価な抹茶で勝負すべきだが、中国はその領域にも注力している。これまで高品質な抹茶の生産は日本が担い、大規模生産による工業的な抹茶は中国が担うといったすみ分けが業界で意識されていたが、その前提は崩れる可能性がある。

現状、外国人観光客に抹茶について聞くと「日本産」とのイメージが強い。今後は例えば、シャンパンが原産地にこだわるように抹茶についても、日本産茶葉を使用していることに対して消費者が価値を感じる仕組みづくりが必要となる。

(やまもと ゆうじ)